

# コミュニティ・スクールだより

第32号

名張市教育委員会事務局発行  
令和4(2022)年2月16日

## 名張市小中一貫コミュニティ・スクール 推進協議会 開催

2月7日(月)に名張市小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会を開催しました。この協議会は、地域づくり代表者、保護者代表、代表校長、教頭代表、教職員代表、事務局職員で構成され、各学校の取組の進捗状況や課題を共有し、今後の推進や方向性について検討する目的で開催しています。

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、参加者を各中学校区代表校長と事務局担当者に縮小し、感染対策を講じた中での実施となりました。まず、小中一貫教育及びコミュニティ・スクール(以下、CS)の推進状況について事務局から行政報告があり、その後、CSの推進に関して、「学校・地域・家庭の連携・協働の更なる推進に向けて」をテーマに、以下のような協議が進められました。

### ★学校間の取組の温度差

学校運営協議会の運営及び連携・協働の活動について、各学校の進捗状況や深まりに温度差が見られる現状から、各中学校区及び各学校の課題を出し合い、共有することから始めました。



【ホワイトボードを活用して、考えを整理し議論を深める】

### ☆なぜ、CSが必要か？

- ・保護者や地域住民との関わりの中で、子どもを育てることが大切。子どもの実態から課題を共有し、課題解決のためにも必要。学校での教育だけでは限界もある。
- ・夢の実現のため。 ・子どもは地域の宝である。
- ・地域住民と連携・協働することで、教育に厚みが出る。
- ・学校への苦情からの脱却、保護者・地域が学校の後ろ盾となる。
- ・10年後、20年後のよりよい未来をつくるため。
- ・持続可能な社会の実現のため。
- ・名張市の生き残りのため。(意見より一部抜粋)

### ☆CSは、学校の役に立っているか？

### ☆CSの充実に向けて推進しているか？



コミュニティ・スクールを  
基盤にした小中一貫教育  
の実現に向けて



- ・連携・協働した取組から、子どもの成長を感じる。
- ・地域住民とともに活動することで、子どもの有用感が育まれるなど、子どもの変容を感じている。
- ・校長の姿は大きく見えるようになったが、先生方の姿が見えにくい。
- ・目に見える形にすることで、地域住民や保護者も認知度・理解度が上がり、前向きになってきた。
- ・防災訓練等を地域とともに実施したことで、新たに見えてきたこともある。
- ・打ち上げ花火的なイベントではなく、地道な活動や継続した取組が大事。(意見より一部抜粋)

## CSの推進(学校・地域・家庭の連携・協働)

のための校長の役割とは？(意見より一部抜粋)

### ◎リーダーシップの発揮

学校運営協議会をどう進めるかは、校長のビジョンや意図、方向性にかかっている。一本の筋の通ったものがあるとよい。地域住民や保護者、教職員が当事者意識を持って主体性を発揮していく取組が大事！出てきた意見を実現させ、取組や成果等を発信することが大切！

### ◎つなぐ役割であり、広告塔

学校、地域が、持続可能な場づくりを意図的に仕組んでいくこと。そのために、人と人、人と学校、学校と地域をつなぐ役割が大事！広告塔の役割も！

### ◎仲間を増やすこと

学校運営協議会委員の主体的な意識と取組のためのマネジメントが大切！！多くの賛同者を増やし、まずは、信頼関係づくりに努めること。

## 西山教育長より



CSは、学校運営の厚みを増すためのもの。

各学校の状況が違うが、現状を踏まえて、次にどのようにステップを進めるか?!

校長が学校のめざす子ども像を職員に語れているか?!

職員の中で語り合いがあるか?!  
「学校愛」  
「子ども愛」

コロナだからできない、しないのではなく、共に考えることから始まる。

4月のリセットでは遅い! PDCAサイクルをスパイラルで!

### ◇校長の「カリキュラム・マネジメント」が重要。校長の意図したものに。

- ◇これまでの運営協議会での議論のあり方や熟議の持ち方・内容、協働の取組について、**振り返りと吟味が必要**。何ができて、何ができなかったか。見通しを持ったものであったか。意図したステージへの仕込みが充分であったか。教職員や児童生徒、小中学校の関わり方、何をねらったものかなど、意図した切り口になっていたら。
- ◇地域とともに**仲間を増やし、いかに絵(構想)を描き、織り成して**いかか。
- ◇**学校・家庭・地域が絡ぐるみで、いかに子どもから地域を変えていけるか**。そのことが、**スクール・コミュニティへとつながっていく**。